

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1678号 2003年03月31日(月)

《 from blitzkrieg to a long war 》

米英軍による対イラク戦争は、「当初からの予定通り」という米英首脳の発言にも関わらず、事前の大方の予想を裏切る展開を示している。アメリカの短期勝利を前提として動いていた市場も、先週の後半にはそれまでの楽観論に基づく相場変動分の調整を余儀なくされた。その一方で、徐々に「戦争慣れ」の部分も出てくるころでもある。

戦局についてはすでに多くのニュースが報じられているので、改めて触れない。はっきりしてきたのは、国際世論を無視して戦争に走ったアメリカにとって厳しい局面が増えてきているということである。米英軍にとってはイラクの各種正規軍もそうだが、アラブ各地から志願者が集まりつつある自爆テロが頭痛の種だし、兵站線の脆弱性も大きな問題だ。戦争は間違いなく、当初予定より長引く見通しになっている。

今朝のワシントン・ポストには、「戦争が始まって10日間。短期・電撃的な勝利を目指した今回の戦争は、バグダッド攻略の前に軍事上のニーズから兵站線などの再構築をし、戦術を再スタートさせる必要上が生じており、戦争は夏まで続く可能性が十分ある」との観測記事が掲載された。これは主に軍の幹部の話をまとめたもの。

しかし今朝のニュースによると、こうした意見にもかかわらず、ブッシュ大統領は週末に開いたイラク戦争に関する幹部会議で、イラク軍側のゲリラ攻撃や補給不足にもかかわらず、バグダッド攻略作戦を予定通り積極推進する方針を決めた。これはラムズフェルド国防長官の主張を入れたもの。フランクス司令官は現地で、イラク軍の将軍二人を捕捉するなど作戦は順調であることを強調している。「これほど戦争の初期で、軍と政治の意見が大きく乖離するのも珍しい」とワシントン・ポストは報じている。

もっと問題なのは、たとえ勝ったとしても戦後処理について同盟国のイギリスとアメリカの間でも大きく齟齬する路線を考えていて、アメリカの孤立が鮮明に浮かび上がる可能性が出てきたことである。先週木曜日に行われた米英首脳会談では、戦局評価よりも戦後処理の方が大きな議題だった。あまり報じられていないが、アメリカとイギリスの立場が大きく違うからである。

アメリカはあくまでアメリカ、もうちょっと広くして「有志国連合」(a coalition of the willing)中心の復興計画を立てている。復興に当たる元請け企業はアメリカ企業に限定し、下請けにその他「有志国連合」諸国の企業や、国連などの国際機関を入れることを考えて

いる。戦後の政治体制も、長ければ2年のフランス將軍を中心とした軍政を想定。

対してイギリスは、イラクの新体制構築をあくまで「国連中心」に考えていると思われる。フランスやドイツとの亀裂状態の関係を修復するためにも、また国内世論を勘案しても、国連を舞台の中心に再び戻したいのである。ブレア首相はこの姿勢を繰り返し述べている。対して、アメリカは国際世論の批判をおそれてはっきりは言わないが、今回の対イラク戦争開始の経緯などからして、「国連」とくに「安保理」を「機能不全に陥った機関」程度にしか考えていない。正直なところ、戦後処理でも出しゃばってきてほしくないのである。

しかし、その姿勢を今から鮮明にするとブレア政権が窮地に陥る。で、静かにしているというわけである。ただし、この米英の路線対立は、今後必ず吹き出してくる。

《 several important figures 》

不安定な戦況下での市場は、戦局をにらみながら一喜一憂しながらも、徐々に「戦争慣れ」や「戦争の日常化」が生じて、他の材料にも関心を移しがちである。ベトナム戦争の最中にずっと相場がベトナム戦争だけを材料にしてきたのではないことは確かだ。今回の戦争がアメリカにとっての第二のベトナム戦争になるということを言っているわけではなく、市場の目は多様になるということである。

しかし一方で、戦争が長期化した場合には確実に経済そのものに与える影響は出てくるし、それはまた時間をかけて別の形で相場の基調を作る可能性がある。今まで一般的に考えられていたのは、「戦争の長期化 アメリカでの消費需要の減退 アメリカ経済の鈍化」というシナリオである。今のところ、アメリカ国民はイラク戦争について、63%が開戦の時期を妥当とし、49%は1年以上の戦いになってもイラクの武装解除とフセイン政権打倒のためなら支持を続けると答えているという。米ニューズウィーク誌が29日公表した世論調査結果である。意気軒昂というわけである。しかし、これが死傷者の増加や、時間の経過の中でどうなるか、一つのポイントである。

今週の戦争以外の主な予定は以下の通りで、そろそろアメリカの景況などに改めて関心が向きそうである。また新しい期にはいることも、相場にとっては新しい息吹になるかもしれない。全体的には、ドルは軟調推移か。株価は不安定な動きを示し、原油などの原材料相場は反発の気配だろう。

3月31日(月)

2月鉱工業生産

2月住宅着工

エリツイン前ロシア大統領来日(～6日)

米3月シカゴ購買部協会景気指数

4月1日(火)

3月日銀短観

経済諮問会議

	日本郵政公社発足
	サラリーマン医療費の自己負担3割に引き上げ
	米3月ISM製造業景況指数
	米2月建設支出
4月2日(水)	米2月製造業受注
4月3日(木)	米3月ISM非製造業景況指数
	ECB理事会
4月4日(金)	2月家計調査
	米3月雇用統計
	グリーンSPANFRB議長が講演

《 have a nice week 》

暖かい週末でした。桜がそろそろ東京でも咲き始めている。今週が一番の見頃でしょう。この週末は諏訪、八王子、高円寺で桜を見ましたが、当然諏訪ではまだつぼみ。八王子がほんの端緒、高円寺では結構綺麗に咲いていました。でもまだ5分といったところ。

それにしても、香港などを中心に広まっている肺炎は不気味ですね。香港などではマンション一棟中に広まって、空気感染の可能性もあるという。SARSを調べたら Severe Acute Respiratory Syndrome の略でした。respiratory は「呼吸器官の」という意味で、従って翻訳は「重症急性呼吸器症候群」。アメリカは中国全土を渡航注意地域に指定した。最新のニュースによると、WHO(世界保健機構)で最初にこの病気を発見して警告を発していた医師がこのほど亡くなったという。カナダのトロントでも、従業員1800人の大病院が閉鎖状況に置かれたという。

それでは、皆さんにはよい一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》